

はじめに

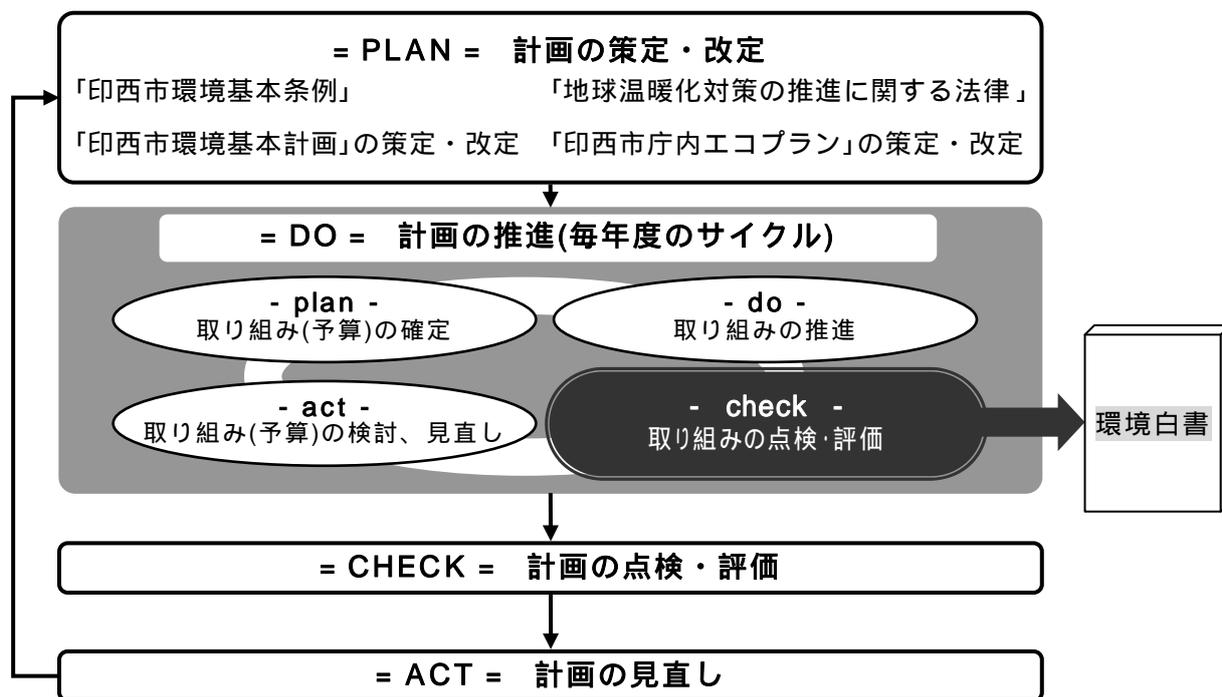
1 印西市環境白書作成の趣旨

印西市は、平成 25 年 3 月に印西市環境基本計画^{*}を新たに策定しました。環境基本計画は、印西市環境基本条例^{*}に基づき、将来のより良い環境づくりを目指すため、施策を総合的かつ計画的に進めるための計画です。また、平成 25 年度より第 3 次印西市市内エコプラン^{*}を進めています。市内エコプランは、「地球温暖化対策の推進に関する法律^{*}」に基づき、市内における地球温暖化対策を効果的に進めるための計画です。

環境基本計画と市内エコプランは、取り組みの進捗状況を年度ごとに点検・評価し、その結果を次の取り組みにフィードバックする plan・do・check・act を繰り返す仕組み (pdca サイクル) によって、進行管理を行います。

印西市環境白書は、環境基本計画と市内エコプランの年度ごとの取り組み状況や目標の達成状況の報告書として、市民の皆様にご公表するものです。また、各種の測定データなどの市の環境に関する情報をとりまとめたデータ集として、広く周知するものです。

〈 環境白書の位置づけ 〉



本文中、印の付いている用語の解説は、資料編 P.45 用語解説をご覧ください。

2 印西市環境基本計画

印西市は、みどり豊かな農地や樹林地が広がり、利根川や手賀沼・印旛沼などの多くの水辺環境に恵まれた自然豊かな側面と、千葉ニュータウンをはじめとした「街」としての機能を併せ持つ環境であることが特徴です。

市では、豊かな環境を将来にわたって守り育てていくため、平成 22 年 3 月の合併後の新たな印西市としての環境基本計画を平成 25 年 3 月に策定しました。

印西市を取り巻く環境の現状と課題をふまえ、印西市が目指す将来環境像を『「ひと まち 自然」が調和し 豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい』と定め、これを実現するための 5 つの「基本目標」と具体的な取り組みに向けた 10 の「取り組み方針」を設定しました。これらの方針に基づき、環境保全と創造に向けた行動を展開していくほか、重点プロジェクトとして「地域で里山*を守り・育むしくみづくり」、「地域ぐるみによるごみ減量・リサイクル活動の展開」、「再生可能エネルギー*・省エネルギー化への推進」に取り組んでいきます。

本環境白書は、5 つの「基本目標」と具体的な取り組みに向けた 10 の「取り組み方針」に沿って記載します。

（ 将来環境像と施策体系 ）

将来環境像 「ひと まち 自然」が調和し 豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい	基本目標 1 <small>【自然環境】</small>	緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して 取り組み方針 (1) 緑や水辺を守り育てよう (2) 生きものと共存しよう
	基本目標 2 <small>【生活環境】</small>	安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して 取り組み方針 (1) 生活環境に不安がないまちを目指そう (2) 有害物質の排出・侵入を防ごう
	基本目標 3 <small>【都市環境】</small>	都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して 取り組み方針 (1) 快適で住みよいまちにしよう (2) 歴史・文化が感じられるまちにしよう
	基本目標 4 <small>【地球環境】</small>	低炭素社会の構築に向けた、地球環境に負荷を与えないまちを目指して 取り組み方針 (1) 地球にやさしいまちをつくろう (2) 資源循環型のライフスタイルを実践しよう
	基本目標 5 <small>【入づくり】</small>	環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して 取り組み方針 (1) 環境を考え行動する人を育てよう (2) 環境配慮行動の実践を促すしくみをつくろう

3 環境指標の達成状況

環境基本計画では、将来環境像の実現と目標の達成を目指すために、施策の進捗状況を計る「環境指標」を設定しています。

10の取り組み方針ごとに環境指標が設定されており、計画の目標値や基準年度との比較により、継続的に点検・評価を行っています。

平成27年度版の環境白書では、平成26年度の実績値をとりまとめ、基準年度（平成23年度）の数値と中間目標年度である平成27年度の目標と比較し評価を行いました。

〈 環境指標の評価の見方 〉

評価	評価内容
	目標値を達成することができました。
	基準年度と比較して、目標値に近づいています。
	基準年度と比較して、変化がありません。
	目標値を達成することができませんでした。基準年度と比較しても目標値に近づいていません。
-	現状値の把握をしていません。

環境指標（基本目標 1-(1)～2(1)）

基本目標	取組方針	環境指標	基準年度 (H23 年度現状)	H26 年度実績	目標(H27 年度)	評価
1 自然環境	(1)	里山保全活動 団体数	11 団体	11 団体	現状以上	
		農振農用地 面積	3,100 ha	3,109 ha	現状以上	
		遊休農地 面積	465 ha	460 ha	現状以下	
		認定農業者数	46 経営体	53 経営体	現状以上	
		市民農園区画数 (民間を含む)	476 区画	494 区画	現状以上	
	(2)	生きものの生息・生育 種数	植物 803 種 動物 539 種	-	現状維持	-
2 生活環境	(1)	二酸化窒素(NO ₂) 濃度	0.032 ppm	0.025 ppm	千葉県環境目標 値(0.04 ppm)以下 を維持	
		浮遊粒子状物質 (SPM) 濃度	0.064 mg/m ³	0.053 mg/m ³	環境基準 (0.10 mg/m ³) 以下 を維持	
		亀成川の BOD 濃度	1.5 mg/L	1.9 mg/L	環境基準 (3 mg/L) 以下を維持	
		神崎川の BOD 濃度	1.4 mg/L	1.1 mg/L	環境基準 (2 mg/L) 以下を維持	
		師戸川の BOD 濃度	4.9 mg/L	3.1 mg/L	環境基準 (3 mg/L) 以下を維持	
		下水道普及率	80.3 %	80.9 %	80.7 %	
		下水道整備率	82.4 %	87.4 %	92.7 %	
		合併処理浄化槽 普及率	77.0 %	80.6 %	83.0 %	
		合併処理浄化槽設置 基数(補助対象分累計)	2,830 基	3,167 基	3,206 基	
		土壌の汚染に係る 環境基準	調査地点全項目(28 項目)基準を達成	調査地点全項目(28 項目)基準を達成	全地点・全項目の 基準達成を維持	
		地下水の水質汚濁に 係る環境基準	調査地点全項目(29 項目)基準を達成	調査地点 5 地点のう ち 4 地点達成	全地点・全項目の 基準達成を維持	
		道路交通騒音 測定値	全調査地点で環境 基準以下を達成	調査地点 4 地点のう ち 3 地点達成	全調査地点で環境 基準以下を維持	

備考) 1-(2)「生きものの生息・生育種数」については、平成 26 年度は調査を実施していません。自然環境調査は 5 年に 1 回程度実施することとし、定期的に現状を把握しています。

環境指標（基本目標 2（2）～ 3（2））

基本目標	取組方針	環境指標	基準年度 (H23年度現状)	H26年度実績	目標(H27年度)	評価
2 生活環境	(2)	ダイオキシン類 大気環境濃度	印西市役所 0.058 pg-TEQ /m ³ 印西高花測定局 0.040 pg-TEQ/m ³	印西市役所 0.025 pg-TEQ/m ³ 印西高花測定局 0.022 pg-TEQ/m ³ 本埜支所 0.017 pg-TEQ/m ³	0.6 pg-TEQ/m ³ 以下 を維持(環境基準)	
		印西クリーンセンター 煙突出口におけるダイ オキシン類測定値	1号炉 0.11 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.035 ng-TEQ/Nm ³	1号炉 0.71 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.02 ng-TEQ/Nm ³	1 ng-TEQ/Nm ³ 以下を 維持(排出基準)	
			3号炉 0.017 ng-TEQ/Nm ³	3号炉 0.012 ng-TEQ/Nm ³	0.5 ng-TEQ/Nm ³ 以下 を維持(排出基準)	
3 都市環境	(1)	不法投棄件数 (うち市民からの通報 件数)	498 件 (89 件)	212 件 (49 件)	137 件 (54 件)	
		ゴミゼロ運動 参加団 体数	218 団体	189 団体	233 団体	
		クリーン印西推進運動 参加団体数	165 団体	173 団体	180 団体	
		市民1人あたりの都市 公園面積	15.53 m ²	16.68 m ²	現状以上	
		市民と協働で管理して いる公園数	16 箇所	22 箇所	28 箇所	
		緑地面積の割合	55.3 %	55.0 %	55.4 %	
	(2)	指定文化財件数	47 件	48 件	50 件	
		歴史民俗資料館への 来館者数	885 人	1,095 人	1,200 人	
		市史刊行物の発行数	48 冊	52 冊	50 冊	
		市史講座の受講者数	70 人	61 人	80 人	

備考) 2-(2)「印西クリーンセンターの煙突出口におけるダイオキシン類測定値」は、印西地区環境整備事業組合の提供資料によります。なお、3号炉については「印西クリーンセンターの操業及び公害防止に関する協定書」により、排出ガスの基準が 0.5 ng-TEQ/Nm³ 以下と定められています。

3-(2)「歴史民俗資料館への来館者数」の目標値(平成 27 年度)は、第二次基本計画策定にあたり、目標値を算定し直したため、「印西市環境基本計画」に掲載した値とは異なります。

環境指標（基本目標4(1)～5(2)）

基本目標	取組方針	環境指標	基準年度 (H23年度現状)	H26年度実績	目標(H27年度)	評価
4 地球環境	(1)	コミュニティバス利用者数	190,773人	223,694人	現状以上	
		市内駅の1日平均乗車人員	30,676人(H22)	24,619人	現状以上	
		1人当たりの二酸化炭素排出量	4.00 t-CO ₂ /年(H22)	3.81 t-CO ₂ /年(H25)	現状以下	
		太陽光発電システム設置件数 (補助対象分累計)	529件	1,229件	1,200件	
		太陽熱利用システム設置件数 (補助対象分累計)	34件	46件	80件	
	(2)	1人1日当たりのごみ排出量	888g	899g	774g	
		総資源化率	21%	20%	26%	
5 人づくり	(1)	環境講座・イベント等の開催回数	15回	32回	18回	
	(2)	環境情報の提供回数	24回	24回	24回を維持	
		環境活動団体数	29団体	22団体	30団体	

備考) 4-(1)「1人当たりの二酸化炭素排出量」については、当該年度のデータを把握できないため、前年度のデータを報告しています。なお、排出量算出方法の詳細は資料編 P.44 に示すとおりです。

4 環境の現状と課題

基本目標 1 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

「基本目標 1」は、印西市の豊かな里山の緑や水辺を守り、自然環境を保全し共生していくための施策群で、環境指標は 6 項目を設定しています。平成 26 年度は、目標達成が 4 項目（66%）、基準年度から変化なしが 1 項目（17%）、調査未実施のため評価を繰り越した項目が 1 項目でした。

印西市は、市街地周辺に豊かな里山や水辺が残り、自然を身近に感じられる環境に恵まれています。市では、自然と共生するまちを将来にわたって残していくために、自然環境調査等による現状把握を進めるとともに、緑や水辺とのふれあいの機会を充実し、自然環境保全の意識の向上に努めていきます。

基本目標 2 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

「基本目標 2」は、安心・安全に暮らせる環境を守っていくための施策群で、環境指標は 15 項目を設定しています。平成 26 年度は、目標達成が 9 項目（60%）、目標に近づいているものが 4 項目（27%）、目標に近づいていないものが 2 項目（13%）でした。

安心・安全な環境を確保するために、市では定期的に大気質や水質等の監視・測定を行っています。「師戸川の水質（BOD）」は平成 25 年度と比べると改善されたほか、「土壌の汚染」についても、全地点・全項目の基準を達成しましたが、今後も、調査結果を注視していく必要があります。また、周辺市町や県との連携を図りながら、広報・ホームページ等を通じて、市民・事業者・市の情報の共有化にも取り組んでいきます。

基本目標 3 都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

「基本目標 3」は、暮らしを豊かで快適な環境にするための施策群で、環境指標は 10 項目を設定しています。平成 26 年度は、目標達成が 2 項目（20%）、目標に近づいているものが 5 項目（50%）、目標に近づいていないものが 3 項目（30%）でした。

市街地の美化や緑化、まちの景観などは、生活に関わる身近な環境課題として特に関心が高い分野です。「快適なまち」の実現には、市だけでなく市民・事業者との協働が不可欠なため、協働活動の場や制度の充実などが求められています。

基本目標 4 低炭素社会の構築に向けた、

地球環境に負荷を与えないまちを目指して

「基本目標 4」は、省エネ・省資源、ゴミの減量、再生可能エネルギーの普及などにより地球環境への負荷を減らすための施策群で、環境指標は 7 項目を設定しています。平成 26 年度は、目標達成が 3 項目（42%）、目標に近づいているものが 1 項目（14%）、目標に近づいていないものが 3 項目（42%）でした。

低炭素社会・循環型社会を実現するためには、地球環境への負荷の少ないライフスタイルへの変革が求められます。ごみに関する指標である「1 人 1 日当たりのごみ排出量」と「総資源化率」はいずれも目標に近づいておらず、取り組みを強化していく必要があります。

基本目標 5 環境配慮行動の実践者を拡大し、

みんなで環境を育てるまちを目指して

「基本目標 5」は、環境保全への意識を高め、環境に配慮し行動できる人を育成するための施策群で、環境指標は 3 項目を設定しています。平成 26 年度は、目標達成が 2 項目（67%）、目標に近づいていないものが 1 項目（33%）でした。

市では、環境美化活動や環境学習会、その他各種イベントなど、市民が参加・学習する機会の提供に努めてきました。今後も、環境行動指針の普及啓発などを通じて、環境配慮行動の定着を図っていきます。

平成 26 年度のまとめ

平成 26 年度における環境指標全 41 項目の状況は、平成 27 年度の目標を既に達成した項目が 20 項目（49%）、目標に近づいているものが 10 項目（24%）、基準年度から変化なしが 1 項目（2%）、目標に近づいていないものが 9 項目（22%）、調査未実施のため評価を繰り越した項目が 1 項目でした。

環境基準は概ね達成されており、遊休農地面積の減少や都市公園面積の増加など、全体として市の環境の状況は良好だった一方で、師戸川の BOD 濃度や 1 人 1 日当たりのごみ排出量の増加など、環境基準を達成していない項目や目標に近づいていない項目は今後も取り組みを推進する必要があります。

市民・事業者・市が協働し、みんなで環境問題の解決に取り組むことができるよう、普及啓発、取り組みの場や学習機会の提供に努めます。



5 環境審議会委員からの意見・提案

平成 27 年度版環境白書について、環境審議会委員から意見・提案がありました。

基本目標 1 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

- 生物多様性に配慮した里山、河川、緑地、公園等の保全と管理を推進するとともに、イノシシやカミツキガメ等の有害鳥獣、外来生物の更なる対策を検討されたい。
- 斜面林、竹林、湧水地の荒廃を調査し対策を検討されたい。また、遊休農地の活用と有機栽培などを積極的に推進されたい。
- 本市の豊かな緑と水辺について、広く PR を行うとともに、市民団体や一般市民の協力のもと、その保全と維持管理に努められたい。

基本目標 2 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

- 環境基準を達成していない大気質（特に光化学オキシダント）、水質、騒音の項目については、その監視に努め、対策を検討されたい。
- 放射線の影響で出荷停止している手賀沼流域の小魚や放射線全般について、情報発信の促進や街路樹などに使用する薬剤について、アレルギー対策を検討されたい。
- 大雨に対する河川整備などの安全性について検討されたい。

基本目標 3 都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

- 街中でのポイ捨てや山林等への不法投棄について、パトロールの強化や草刈り等によって捨てにくい環境の整備に努められたい。また、ゴミゼロ運動について、場所の変更などを検討し、より効果的な運動になるよう検討されたい。
- 自然に関する活動や歴史文化に関する活動を行う市民団体に対して、より積極的な連携と支援に努められたい。

基本目標 4 低炭素社会の構築に向けた、

地球環境に負荷を与えないまちを目指して

- 再生可能エネルギーの情報収集と公共施設への導入を検討されたい。また、リサイクル・リユースを含めた家庭の省エネルギーに関する普及促進に努められたい。
- 温暖化対策として、温室効果ガスの削減と、市民生活（熱中症対策等）や生態系を守る適応策について検討されたい。

基本目標 5 環境配慮行動の実践者を拡大し、

みんなで環境を育てるまちを目指して

- 幼稚園、保育園及び小中高校における環境配慮行動の推進とともに、ワークショップや発表の場の提供など、環境教育の推進に努められたい。
- 環境フェスタなどの環境イベントの積極的な推進と市民（ボランティア含む）や事業者の協力が得られるような取り組みを検討されたい。

6 環境推進市民会議委員からの意見・提案

平成 27 年度版環境白書について、環境推進市民会議委員から意見・提案がありました。

基本目標 1 緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して

- 里山、竹林、耕作放棄地等の現状（地権者含む）を把握し、ボランティアの活用など、その整備・保全活動等を通じて緑地保全に努められたい。
- 里山や水辺の生態系や希少種を守るとともに、外来種（ペットを含む）や有害鳥獣の扱いなど、生物多様性地域戦略等の指針を作成されたい。
- 各種イベントの参加促進などの啓発活動だけでなく、市民団体や市民と協力して、保全活動を推進できる環境づくりに努められたい。

基本目標 2 安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して

- 下水道の整備、合併浄化槽の導入促進及び開発地内の貯水池への土砂等の流入防止などを通じて、水質悪化を抑制するよう努められたい。
- 市街化調整区域での宅地開発やヤード設置の抑制に努められたい。特にヤードについては、その監視を強化されたい。

基本目標 3 都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して

- 不法投棄、ポイ捨て及び犬のフンなどの防止のため、看板等の増設による意識啓発に努められたい。
- ごみゼロ運動などの回数を増やすことや、自治会、学校、子ども会が参加する仕組みを検討されたい。

基本目標 4 低炭素社会の構築に向けた、

地球環境に負荷を与えないまちを目指して

- 環境家計簿の普及や地産地消の推進など、温室効果ガスの削減にさらに寄与できるよう努められたい。
- ごみの分別（再生資源ごみの周知など）とその減量化についての具体的方策を検討することによって、循環型社会の構築に努められたい。
- 利便性や地球温暖化防止の観点から、公共交通機関の利用促進のため新たな路線バスのルート等について検討されたい。

基本目標 5 環境配慮行動の実践者を拡大し、

みんなで環境を育てるまちを目指して

- 市民団体のネットワークづくりを推進し、そのバックアップを行うことを検討されたい。
- 次世代を担う子どもたちへの環境教育を拡充するとともに、環境保全活動へのシルバー世代の活用を促進することを検討されたい。